

「心理学」の起源に関するメモランダム

大久保街重¹

Memorandums on the origin of the term “psychology”

Matia Okubo¹

Abstract: We present a historical review of the term “psychology.” The literature review suggests that the term originated in the 16th century. Theologian Gerhard Schnell and Italian physician and philosopher Pier Nicola Castellani each used the Latin term “*psychologia*” in their books published in 1525. The term “*psychologia*” had been used in philosophy to refer to mental science through centuries and was translated in Japanese by Amane Nishi as “shinrigaku” in 1875. The term “shinrigaku” referred to mental science in philosophy at the time because it was before the foundation of scientific psychology by Wilhelm Maximilian Wundt in 1879.

Keywords: history of psychology, origin of word psychology, Japanese translation of word psychology

心理学はヨーロッパ発祥の学問である。従って、心理学、すなわち英語の psychology という用語の起源はヨーロッパ文化発祥の地、ギリシャに遡ることができる。少なくとも多くの教科書にそのように書いてある。これらの教科書によればギリシャ語で魂や精神を意味する ψυχή (*psyche*) と言語、論理などを意味する λόγος (*logos*) を結びつけた言葉が、ψυχολογία (*psychologia*) である。ただし、これは造語で本来のギリシャ語には元々は存在しない (d’Isa & Abramson, 2023)。また、現在の心理学に対応する用語も初出はギリシャ語でなかった。本稿では、われわれが学術用語として用いるようになった心理学という用語が、いつ、いかにして生まれたか、その起源を探る。最近、新たな発見があり (e.g., Janssen & Hubbard, 2021), 起源について幾つかのことが明らかになった。その文献情報をここに紹介したい。また、本邦において心理学という用語が用いられるようになった経緯も合わせて紹介しよう。

psychologia あるいは *psychologia* の初出

英語の psychology に対応する用語の起源を探るには、ラテン語での初出を探すことになる。ラテン語がローマ時代以降、20世紀まで中心的な学術言語だったからである。英語の psychology に対応するラテン語の *psychologia* あるいは *psychologia* はすでに16世紀から使用が確認されており、当初は神学、続いて哲学の領域で使われてきた (Lapointe, 1970)。神学における *psycho-*

logia は、現在の心理学とは意味するところがだいぶ異なっていた。Lapointe (1970) 曰く、*psychologia* は霊的、あるいは神聖な存在 (spiritual being) について述べるために造語された。そもそも学問領域の全体の名称ではなかった。霊的、あるいは神聖な存在について扱う学問は、全体として pneumatology であった。これは精霊論、あるいは霊物学と訳される。そのまま pneumatology と呼ぶこともある。*Psychologia* は、pneumatology の1領域であり、特に人間の魂に関する領域に対して用いられた用語であった (Lapointe, 1970)。

では、*psychologia* の初出はいつ、誰によるものだったのか？書籍や文書とした残された証拠によると、Marko Marulić (1450-1524)、あるいは出身地をつけた名である Marko Marulić Splitsanin が初出した用語だとされる (e.g., Krstic, 1964; Vande Kemp, 1980)。時期は1524年以前とあまり正確にはわかっていない。Marulić は、クロアチア出身の詩人で哲学者である。芸術的な活動も行っていたので、ヒューマニスト、あるいはルネサンスマンと分類するのが良いかもしれない。彼の *Psychologia de ratione animae humanae* (英訳、Psychology, on the Nature of the Human Soul) と題する書籍が *psychologia* という用語の初出だとされる (Krstic, 1964)。この書籍の正確な出版年はわかっていない。Marulić は1524年に死去した。これは公的な記録により明らかである。従って、それより前であろうと推察された。Marulić は、当時、ベネチア共和国の一部、ダルマチアに拠点を置いていた。そのためこの書籍もベネチア共和国で出版された。Frano Božićević (1469-1542) による Marulić の伝記に著作リストが掲載された。このり

受稿日2023年11月13日 受理日2023年11月27日

1 専修大学人間科学部心理学科 (Department of Psychology, Senshu University)

1961)。しかし、その後の発見もあり、その名称で呼ばれることは今ではほとんどないようである。このような変化は、心理学史が発見とともに書き換えられることを示す好例であろう。

Psychologiaの変遷

16-17世紀の哲学において、*psychologia* は頻出する用語ではなかった。実際、17世紀の大陸合理論、イギリス経験論の論客として著名な哲学者はことごとくこの用語を使用しなかった (Luccio, 2013)。René Descartes (1596-1650)、Thomas Hobbes (1588-1679)、John Locke (1632-1704)、Nicolas Malebranche (1638-1715) は、理性をとば口に心の成り立ちに関する議論を行ったことで哲学史上も著名である。しかし、*psychologia* という用語はこの議論に全く登場しなかった (d'Isa & Abramson, 2023; Luccio, 2013)。ただし、当時の *psychologia* の上位概念である *pneumatology* は度々出てきたようだ。例えば、大陸合理論の論客の1人である Gottfried Wilhelm Leibniz (1646-1716) は頻繁に用いた (Lapointe, 1970)。

18世紀になり心身問題を論じる過程で、哲学者たちは徐々に *psychologia* という用語を使用するようになった。イングランド王国、マルボロ公爵の公宮牧師だった John Broughton (1673/1674-1720) は1703年に、“*Psychologia*”と題する本を出版した。この本が英語圏で *psychologia* という用語を広めるきっかけとなった。書籍の内容としては、心身問題を扱ったものであった。ただし、他者への批判、具体的には、John Locke に影響を受けた思想家で医師の William Coward (1657?-1725) への直接的かつ辛辣な批判が大部分を占めていた特殊な書籍であった (Luccio, 2013)。

現代の心理学への直接的な影響を考えるとドイツの哲学者 Christian Wolff (1699-1754) の役割が大きい。彼は *Psychologia empirica* (Wolff, 1732) と *Psychologia rationalis* (Wolff, 1734) という2冊を出版した。前者は実証的心理学、後者は合理性の心理学と訳すことができる。実証的心理学は、事実を集積する、いわば魂についての帰納的検討であり、合理性の心理学は、逆に前提に基づく魂についての演繹的検討とされた (Wolff, 1732, 1734)。特にこの実証的心理学は、Wundt に強い影響を与え、彼によって創始された科学的な心理学の礎になったと考えられている (Kempe, 2020; Luccio, 2013)。また、また、これらの書籍の出版以降に *psychologia* という用語が広く使われるようになったとも言わ

れており (高砂, 1998)、そのような意味でも影響力が起きた。

ただし、*psychologia* という用語が広く使われるようになった後も、18世紀のうちは、意味として現代の心理学に対応するものではなかった。つまり、これまで同様、*pneumatology* のひとつの領域で、人間の魂に関するものが *psychologia* と呼ばれることが多かった。むしろ、ドイツ語圏では、実証的な心の検討を *Seelenlehre*、観察に重きを置く場合には *Seelenkunde* と呼ぶことが多かった (Luccio, 2013)。フランス語圏では、*science de l'âme* と呼ばれた (Luccio, 2013)。ドイツ語の *Psychologie* が現代の心理学と同様の意味を持つのは、19世紀中頃以降となる。つまり、Wilhelm Maximilian Wundt (1832-1920) や Friedrich Albert Lange (1828-1875) による科学的心理学の誕生以降であった。

19世紀になり、その頃の時代背景もあり、魂の探究が、心の科学へと変わっていく。18世紀の終わりに起こったフランス革命に続き、ヨーロッパ各地で諸国民の春と呼ばれた政治的展開があった。また、科学教育の体系化や職業としての科学者が誕生するなど、第2次科学革命が起こった時代であった。この時代に魂の検討が心の科学に変わっていくその過程については、Reed (1998) が詳しい。日本語訳もある。

心理学の訳出と定着

ラテン語の *psychologia* は、ドイツ語では *Psychologie*、英語の *psychology* に対応する。これらは日本語で心理学と訳される。日本語の心理学という用語は哲学者の西周 (1829-1897) が訳したものだ (太田, 1998)。西周は、啓蒙思想家として知られる。若い頃から語学に秀でて、オランダ留学を経て、江戸幕府の洋学校である開成所の教授を務めた。明治維新後も政府の要職を務め、近代的啓蒙学術団体である明六社の設立にも関わった。イギリス議会に関する知識をもとに徳川慶喜へ大政奉還後の政治体制を示した「議題草案」を提出するなどその知識が重用された人物であった。

実は、この心理学という用語は英語の *psychology* を訳したものではなかった (太田, 1988)。英語の *mental philosophy* あるいは *mental science* を翻訳したものと言われている。出版物として心理学という用語が初出されたのは、1875年である。西は Haven (1857) の著作“*Mental Philosophy*”を「璽般氏著心理学」(ヘブンしちよ しんりがく) という書名をつけ、1875年に出版した。なお、西は1874年に「致知啓蒙」という論理学に関

する書籍を出版した。このなかで mental science あるいは psychology を「性理の学」と訳している。

西が訳した心理学と現代の意味での心理学（いわゆる Wundt にはじまる科学的な心理学）は別物であることに注意しなくてはならない。まず、1875年は、心理学の始祖と呼ばれる Wundt が、1879年にライプツィヒ大学に心理学実験室を設立した、正確には実験室を使用したカリキュラムが正式に始まった時期よりも前である。つまり、心理学の誕生よりも先んじている。現代の心理学と、西が訳した心理学は意味が異なっている。現代なら、心の哲学と解釈した方が良くと考えられる。

現代の意味で心理学という用語が使われるようになったのは、元良勇次郎（1858-1912）によるところが大きい（佐藤，1998）。元良については、大山・大泉（2014）が詳しい。元良は本邦最初の心理学者であり、東京帝国大学に心理学研究室を設立した人物である。彼は Wundt の系譜にある Granville Stanley Hall（1844-1924）から指導を受け、アメリカ、ジョンズ・ホプキンス大学で博士の学位を取得した。精神物理学的測定法など、種々の心理学における実験手法を身につけ1888年に帰国、その直後から帝国大学文科大学（現東京大学文学部）で講師として「精神物理学」を担当し、2年後の1890年に帝国大学教授に就任した。この時点でも担当は「精神物理学」であった（「心理学」は心の哲学の内容で別の講師が担当していた）。そして、1893年には講座制が導入され、「心理学、倫理学、論理学」に2講座が設置された。そして、元良は第1講座の教授、すなわち、心理学講座を担当する教授となった。元良は教育研究のため実験室を設立した。この実験室も当初は、精神物理学実験場と呼ばれていたが、のちに心理学研究場と改名された。元良が心理学講座の教授となることで、実験を主たる研究方法とする科学的心理学が、名実ともに心理学と呼ばれるようになった。元良が中心となった体制の整備も、現代で使われる意味での心理学という用語の定着に重要な役割を果たした（佐藤，1998）。

結語

英語の psychology に対応するラテン語 *psychologia* あるいは *psychologia* は、当初、霊魂や精霊を意味するものであり、現代、われわれが用いる、心の実証的な科学という意味で使われてはいなかった。*Psychologia*, *psychologia* という用語が生まれた16世紀という時代、そして、神学の枠組みで使用された背景を考えると、現代と意味が違っていたのは当然であろう。18世紀になり

Wolff が *psychologia* に、実証的な意味合いを持たせ、それが Wundt による科学的な心理学の誕生に伴い、現代の意味で使われる用語となった。日本語の心理学も科学的心理学誕生前に訳出された事情もあり、これと似た経緯をたどった。

今後、心理学史上の発見により、初出についてはさらに新たな証拠が見つかり、起源があらためて遡ることになるかもしれない。それでも、霊魂や精霊を意味した言葉が、やがて、科学の一分野を意味するというように、時代の変化を体現した意味の変容は変わることがないだろう。将来、新たな証拠によって、それにどのような肉づけが進むのか楽しみである。

引用文献

- Beninga, E. (1723). *Volledige chronyk van Oostfrieslant*. Emden: Henrich Meybohm, Josua Beek and Hermannus Wolfram.
- Boring, E. G. (1966). A note on the origin of the word psychology. *Journal of the History of the Behavioral Sciences*, 2(2), 167. [https://doi.org/10.1002/1520-6696\(196604\)2:2<167::AID-JHBS2300020207>3.0.CO;2-3](https://doi.org/10.1002/1520-6696(196604)2:2<167::AID-JHBS2300020207>3.0.CO;2-3)
- Castellani, P. N. (1525). *Opus de Immortalitate Animorum Secundu[m] Platonem & Aristotelem*. Cremona: Giovanni Maria Simonetti.
- d'Isa, R., & Abramson, C. I. (2023). The origin of the phrase comparative psychology: an historical overview. *Frontiers in psychology*, 14, 1174115. <https://doi.org/10.3389/fpsyg.2023.1174115>
- 古川 顕 (2014). 温泉学入門：有馬からのアプローチ. 関西学院大学出版会.
- Göckel, R. (1590). *ΨΥΧΟΛΟΓΙΑ: Hoc Est, De Hominis Perfectione, Animo et in Primus Ortu Hujus, Commentationes ac Disputationes Quorundam Theologorum & Philosophorum Nostra Aetatis*. Marburg: Paulus Egenolphus.
- 畑村 洋太郎 (2005). 失敗学のすすめ. 講談社.
- Haven, J. (1857). *Mental Philosophy: Including the Intellect, Sensibilities, and Will*. Gould and Lincoln.
- Jovanović, N. (2005). The body of Allegoresis: the linguistic realisation of Tropologica Daudiadis Expositio. *Colloquia Maruliana* 14, 83-101. Retrieved from <https://hrcak.srce.hr/2950>
- Janssen, D. F., & Hubbard, T. K. (2021). Psychology: Early print uses of the term by Pier Nicola Castellani (1525) and Gerhard Synellius (1525). *History of Psychology*, 24(2), 182-187. <https://doi.org/10.1037/hop0000187>
- Klempe, S.H. (2020). Christian Wolff: The Ground Zero of Modern Psychology?. In: *Tracing the Emergence of Psychology, 1520-1750. Theory and History in the Human*

- and Social Sciences. Springer, Cham. https://doi.org/10.1007/978-3-030-53701-2_11
- Krstic, K. (1964). Marko Marulic: The Author of the Term "Psychology" *Acta Instituti Psychologici Universitatis Zagrabensis*, 36, 7-13. Retrieved from <https://psychclassics.yorku.ca/Krstic/marulic.htm>
- Lapointe, F. H. (1970). Origin and evolution of the term "psychology." *American Psychologist*, 25(7), 640-646. <https://doi.org/10.1037/h0029766>
- Luccio, R. (2013). Psychologia—The birth of a new scientific context. *Review of Psychology*, 20(1-2), 5-14.
- 太田 恵子 (1998). 心理学と 'psychology'. 佐藤達哉・溝口元 (編著) 通史日本の心理学. (pp.17-40), 北大路書房.
- 大山 正・大泉 溥 (2014). 本邦心理学の創始者元良勇次郎の足跡を辿って. 心理学評論, 57(2), 258-272.
- Reed, E. S. (1998). *From soul to mind: The emergence of psychology from Erasmus Darwin to William James*. Yale University Press.
(村田 純一・染谷 昌義・鈴木 貴之 (訳) (2000/2020). 魂 (ソウル) から心 (マインド) へ: 心理学の誕生. 講談社.)
- Roback, A. A. (1961). *History of psychology and psychiatry*. Philosophical Library.
- 佐藤 達哉 (1998). 心理学研究の自立: 学会・留学・実験. 佐藤達哉・溝口元 (編著) 通史日本の心理学. (pp.64-114), 北大路書房.
- Schnell, G. (1525). *Hortulus Orationum Metrico-Dramaticus, in Quo Qui Se Nocte Diuque Pie Exercuerit, is se Demum in Uerae Pietatis Studio Nouerit Non Vulgariter Promouisse, in Tres Libros Distinctus*. Deventer: Albert Pafraet.
- 高砂 美樹 (1998a). 心理学という用語について. 佐藤達哉・溝口元 (編著) 通史日本の心理学. (p.4), 北大路書房.
- Vande Kemp, H. (1980). Origin and evolution of the term *Psychology*: Addenda. *American Psychologist*, 35(8), 774. <https://doi.org/10.1037/0003-066X.35.8.774>
- Wolff, C. (1732). *Psychologia Empirica Methodo Scientifica Pertractata, qua Ea, Quae de Anima Humana Indubia Experientiae Fide Constant, Continentur et ad Solidam Universae Philosophiae Practicae ac Theologiae Naturalis Tractationem Via Sternitur*. Renger.
- Wolff, C. (1734). *Psychologia Rationalis Methodo Scientifica Pertractata, Qua ea, Quae de Anima Humana Indubia Experientiae Fide Innotescunt, per Essentiam et Naturam Animae Explicantur, et ad Intimiorum Naturae Ejusque Autoris Cognitionem Profutura Proponuntur*. Renger.